

# 台風や集中豪雨 のとき

## 風水害への備え

- ここ数年、異常気象による豪雨が頻発し、下水道の水があふれたり、河川の洪水被害や土砂災害が多発したりしています。
- 風水害は地震と異なり突発的に発生するものではありません。しかし、危険が迫ってきてからの準備では間に合いません。日ごろからの備えが大切です。
- 洪水時に自分の住んでいる地域がどの程度浸水するか「浸水ハザードマップ」などで確認しましょう。

### 避難時の注意点

#### 【正確な情報収集】

- 最新の気象情報、災害情報、避難情報をテレビ・ラジオで確認しましょう。  
〈p.23に詳細〉
- 洪水の危険がある場合には、市が広報車などを通じて避難情報を発信しますので、その呼びかけの内容に従って行動してください。  
雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険や不安を感じたら早めに自主的に避難しましょう。

#### 【浸水前の避難を】

- 安全に避難できるよう、浸水が始まらないうちに避難しましょう。
- 避難する前に浸水してしまったときや激しい降雨のときには無理をして避難施設に行かずに、住居の2階や近くの高い建物の上階に緊急的に避難するようにしましょう。歩行可能な水深の目安は大人で約50cm（ひざの高さ）までです。

#### 【動きやすい服装で、二人以上の避難を】

- 一人で避難せず、周囲の人と声をかけ合って、お互いの身体をロープなどで結び合って避難しましょう。
- 動きやすい格好で、裸足やサンダル、長靴は避け運動靴を履きましょう。

#### 【足元に注意】

- 水面下にふたの外れたマンホール、側溝があると、足をとられ、たいへん危険です。杖や長い棒で前方の安全を確認しながら歩きましょう。

#### 【要配慮者の安全確保】

- 高齢者や障害者、子どもは早めの避難が重要です。高齢者などの避難にみんなで協力しましょう。

### 浸水ハザードマップあります！

猪名川、神崎川、千里川、天竺川、  
菟川、高川および箕面川が大雨で増水し、堤防が決壊した場合などの浸水想定区域や浸水深などを確認することができます。

〈お問合せ〉危機管理課  
☎ 6858-2683

### 地下室などの危険性

- 大雨のときには、真っ先に周辺から地下街や地下室に水が流れ込みます。浸水の危険があるときは早めに避難しましょう。
- 地下室などは、水の流入経路や避難経路を確認しておくとともに、止水板や土のうを用意するなど、日ごろからの浸水対策が大切です。

#### 地下室は危険

地下室内では屋外の様子  
がわかりません。



#### 早めの避難を

地上が冠水すると一気に水が  
流れ込んできます。



#### 水圧でドアは 開きません

浸水が進むと水圧でドアが  
開きにくくなります。早めの避  
難を心がけましょう。



#### 浸水すると 停電します

浸水すると停電し、真っ暗にな  
ります。エレベーターも使えません。



### 防災メモ

#### 簡単な土のうの作り方

建物内への洪水の流入を防ぐために、土のうの作り方を知っておくと安心です。①土のう袋を用意します。②土を土のう袋の約7～8割ほど入れます。③袋の端についているひもを縛り、緩まないようしっかりと締めます。

#### 土のうの代用品

どうしても土のうの準備が間に合わない場合、家庭で使用している大きめのゴミ袋を二重にし、中に半分程の水を入れて隙間なく並べる方法も有効です（これらは小規模な水害用で、水深が浅い初期の段階で使用します。）。

